



EPSON
EXCEED YOUR VISION

**2014年度（2015年3月期）
第2四半期 決算説明会**

2014年10月31日
セイコーエプソン株式会社

©SEIKO EPSON CORPORATION 2014. All rights reserved.

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。

そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新商品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 本説明資料における表示方法

数値： 表示単位未満を切り捨て

比率： 円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

■ 2014年度業績開示について

2014年度からIFRSによる業績を開示

(実績ならびに予想数値はIFRS)

比較対象となる2013年度実績値もIFRSに置き換えて表示

※ 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。
連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益と
ほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも
有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

■ IFRS導入について

1. 概要

2. 詳細

決算ハイライト（中間決算）



(億円)	2013年度		2014年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	実績	%	前年同期比	前回予想比
売上収益	4,713	-	5,030	-	5,128	-	+414 +8.8%	+98 +1.9%
事業利益	335	7.1%	380	7.6%	509	9.9%	+173 +51.7%	+129 +34.0%
営業利益	304	6.5%	690	13.7%	785	15.3%	+481 +158.2%	+95 +13.9%
税引前 四半期利益	295	6.3%	690	13.7%	806	15.7%	+510 +173.1%	+116 +16.8%
四半期利益	198	4.2%	590	11.7%	656	12.8%	+458 +230.1%	+66 +11.3%
EPS	110.93 円		329.81 円		366.63 円			
換算 レート	USD	98.85 円	101.00 円		103.04 円			
	EUR	130.00 円	137.00 円		138.91 円			

前回予想 第2四半期以降の予想前提レート
USD: 100.00円, EUR: 135.00円

■ 2014年度 中間決算の概要

- 上期は、売上収益が前年同期比 414億円増収の 5,128億円、
事業利益は173億円増益の 509億円
営業利益は、事業利益の増益に加え、
年金制度改革にともなう過去勤務費用減少の影響 約300億円により、
前年同期比 481億円増益の 785億円、
四半期利益は458億円増益の656億円。
- また、7月31日に発表した前回予想に対しても、上期は
売上収益ならびに各段階利益において、大幅に上回った。

決算ハイライト（第2四半期決算）



(億円)	2013年度		2014年度		増減額/ 増減率 前年 同期比	7/31前回予想(参考)	
	2Q実績	%	2Q実績	%		上期予想から 1Q実績を控除	%
売上収益	2,493	-	2,665	-	+171 +6.9%	2,567	-
事業利益	238	9.6%	273	10.3%	+35 +14.7%	144	5.6%
営業利益	230	9.3%	239	9.0%	+8 +3.8%	143	5.6%
税引前 四半期利益	230	9.2%	258	9.7%	+28 +12.5%	142	5.6%
四半期利益	149	6.0%	190	7.2%	+41 +28.0%	124	4.8%
EPS	82.90 円		106.18 円				
換算 レート	USD	98.95 円	103.92 円			100.00 円	
	EUR	131.05 円	137.76 円			135.00 円	

前回予想 第2四半期以降の予想前換レート
USD: 100.00円、EUR: 135.00円

■ 2014年度 第2四半期の実績

- 売上収益は、前年同期比 171億円増収の 2,665億円、
- 事業利益は 35億円増益の 273億円、
- 営業利益は 8億円増益の 239億円、
- 四半期利益は 41億円増益の 190億円。

2014年度第2四半期業績▶事業セグメント別



- 2014年度 第2四半期の売上収益、事業利益の事業セグメント別内訳
 - 情報関連機器を中心に、前年度実績および前回予想を上回った。
 - なお、全社費用が減収・減益となっているが、これは前年同期に一時的な特許料収入があったことなどによるもの。

第2四半期 業績のポイント(社内計画比)

- ◆ 情報関連機器の各事業が堅調に推移、円安効果も加わり、売上収益および事業利益は社内計画を上回った

全社	+ 為替の円安影響 + 一部固定費等の費用が下期にスライド
情報 関連機器	○ 大容量インクタンクモデル、商業プリンターが計画通り進捗 + 消耗品売上が好調 + 欧米POSプリンターの販売好調 + プロジェクターの販売好調(四半期記録更新)
デバイス精密	- 民生向け水晶の数量減少 - 半導体の一部需要の下期シフト

※ +,-の符号は事業利益への影響を表す

7

■ 2014年度 第2四半期業績のポイント

2014年度業績予想



(億円)	2013年度		2014年度				増減額 / 増減率	
	実績	%	7/31予想	%	今回予想	%	前年同期比	前回予想比
売上収益	10,084	-	10,400	-	10,600	-	+515 +5.1%	+200 +1.9%
事業利益	900	8.9%	920	8.8%	1,050	9.9%	+149 +16.6%	+130 +14.1%
営業利益	795	7.9%	1,200	11.5%	1,320	12.5%	+524 +65.9%	+120 +10.0%
税引前利益	779	7.7%	1,190	11.4%	1,320	12.5%	+540 +69.3%	+130 +10.9%
当期利益	844	8.4%	1,000	9.6%	1,110	10.5%	+265 +31.5%	+110 +11.0%
EPS	472.03 円		559.00 円		620.50 円			
換 算 レ ー ト	USD	100.23 円	100.00 円		102.00 円			
	EUR	134.37 円	136.00 円		137.00 円			

今回予想
3Q以降の為替レート前提
USD: 100.00円
EUR: 135.00円

為替感応度(1円円安の年間影響額)

	売上収益	事業利益
USD	+約38億円	+約3億円
EUR	+約12億円	+約8億円

* 事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出

■ 2014年度の通期業績予想

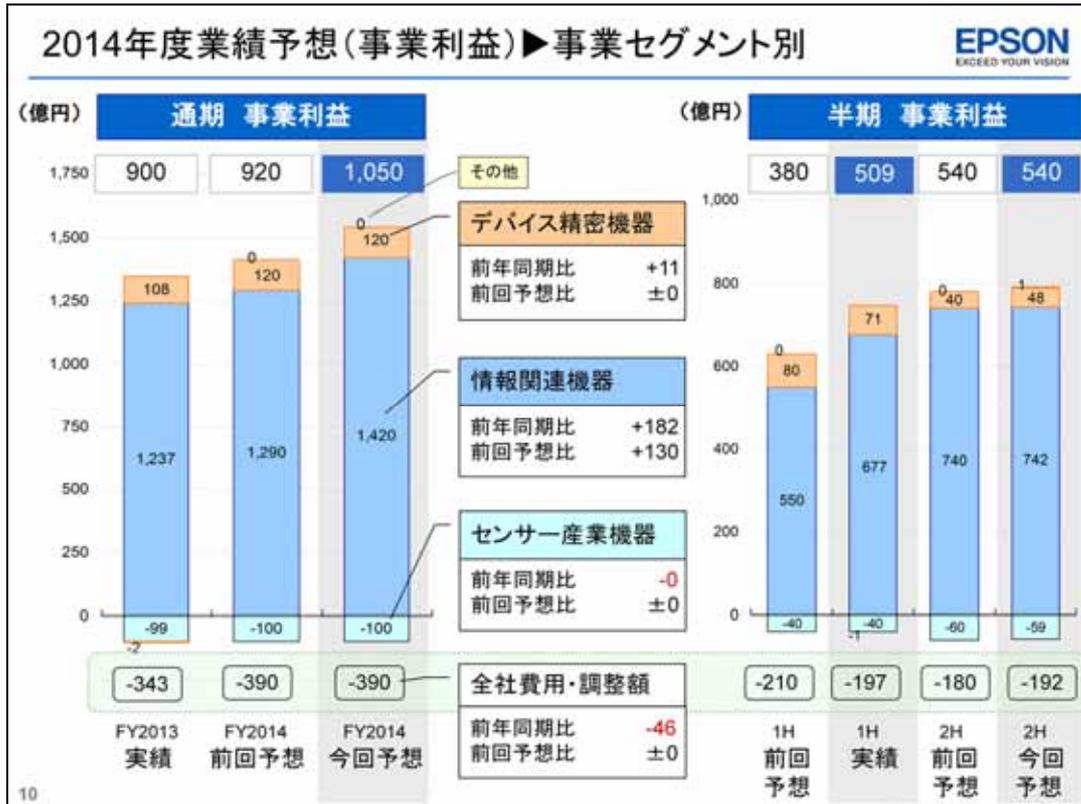
- 売上収益は、前回予想を 200億円上回る 1兆 600億円、
事業利益は、130億円上回る 1,050億円、
営業利益は、120億円上回る 1,320億円、
当期利益は、110億円上回る 1,110億円に修正。
- 下期における為替レートの前提は
USドルを 100円、ユーロを135円で据え置き。
- 1円の円安による 年間の事業利益への為替感応度は、
前回予想時と同じ、USドルが3億円、ユーロが8億円。

2014年度業績予想(売上収益)▶事業セグメント別



■ 2014年度の事業セグメント別売上収益予想、上期 / 下期別の内訳

- 下期は、前回予想に対し、デバイス精密機器、情報関連機器ともに上方修正することにより、連結合計の売上収益も上方修正。



■ 2014年度の事業セグメント別事業利益予想、上期/下期別の内訳

- 下期は、連結合計の事業利益を540億円で据え置くが、通期は、上期の上振れ分が上乘せとなり、前回予想の920億円から1,050億円に上方修正。
- その結果、今期の事業利益は、上期 / 下期のバランスが大幅に改善。
- これは、大容量インクタンクモデルの販売増加、インクカートリッジモデルのコスト改善による採算性向上、年末商戦の比重が大きい日本市場の相対的な低下など、情報関連機器を中心に戦略に基づいた施策を着実に遂行してきたこと、さらに円安の影響も加わり、改善したもの。
- 今期は、固定費など費用の上期から下期へのスライドなど、一時的となる要因もあるが、企業の体質としては、着実に業績バランスの改善が進みつつある。

2014年度 業績予想のポイント



- ◆ SE15後期 新中期経営計画で定めた戦略は順調に進捗、
下期以降もブレることなく施策に取り組む
- ◆ 下期の業績予想に以下の要素を織り込む

全社	○ 各事業を取り巻く市場環境や計画前提に大きな変化はない － 業績連動費用増、上期からスライドした費用増
情報 関連機器	+ 大容量インクタンクモデルおよびプロジェクターの数量増 － IJP消耗品の個別要因 － 戦略商品の販促投資
デバイス精密	+ 上期からシフトの需要取り込み

※ +, - の符号は事業利益への影響を表す

(億円)

	売上収益			事業利益		
	前回予想	今回予想	修正	前回予想	今回予想	修正
上期 実績	5,030	5,128	➡	380	509	➡
下期 予想	5,370	5,471	➡	540	540	➡
通期 予想	10,400	10,600	➡	920	1,050	➡

11

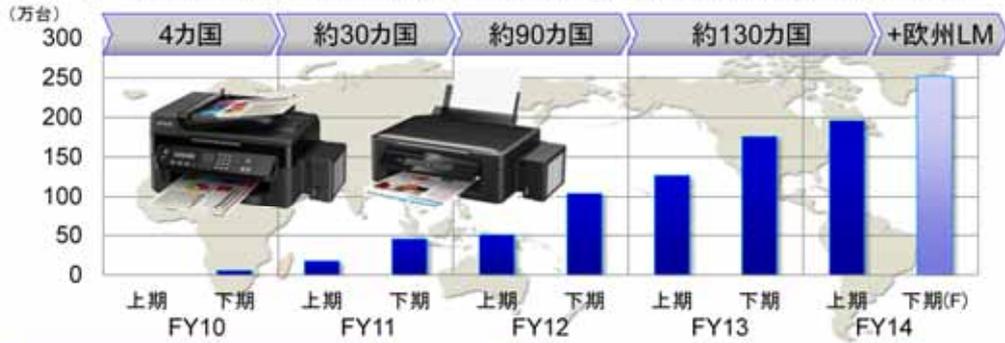
■ 2014年度 通期業績予想のポイント

2014年度 下期の取り組み



大容量インクタンクモデル

➤ エマージング市場で堅調な伸び、下期より欧州先進国(LM)にも投入開始



スマートチャージ/ 大容量インクパックモデル

- 国内受注は順調に推移、顧客反応は良好
- 予定通り西欧で販売開始



12

■ 2014年度下期の取り組み

プロジェクター

- 市場成長が回復するなか、ビジネス/ホーム向けとも好調を持続
- 超短焦点など特徴ある商品の拡販強化

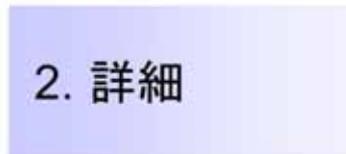


センシングシステム

- エプソンのコア技術を生かした特徴ある新商品を投入
 - ・ GPS、モーション、バイタルなどのセンシング技術
 - ・ 低消費電力技術
 - ・ ウォッチ技術

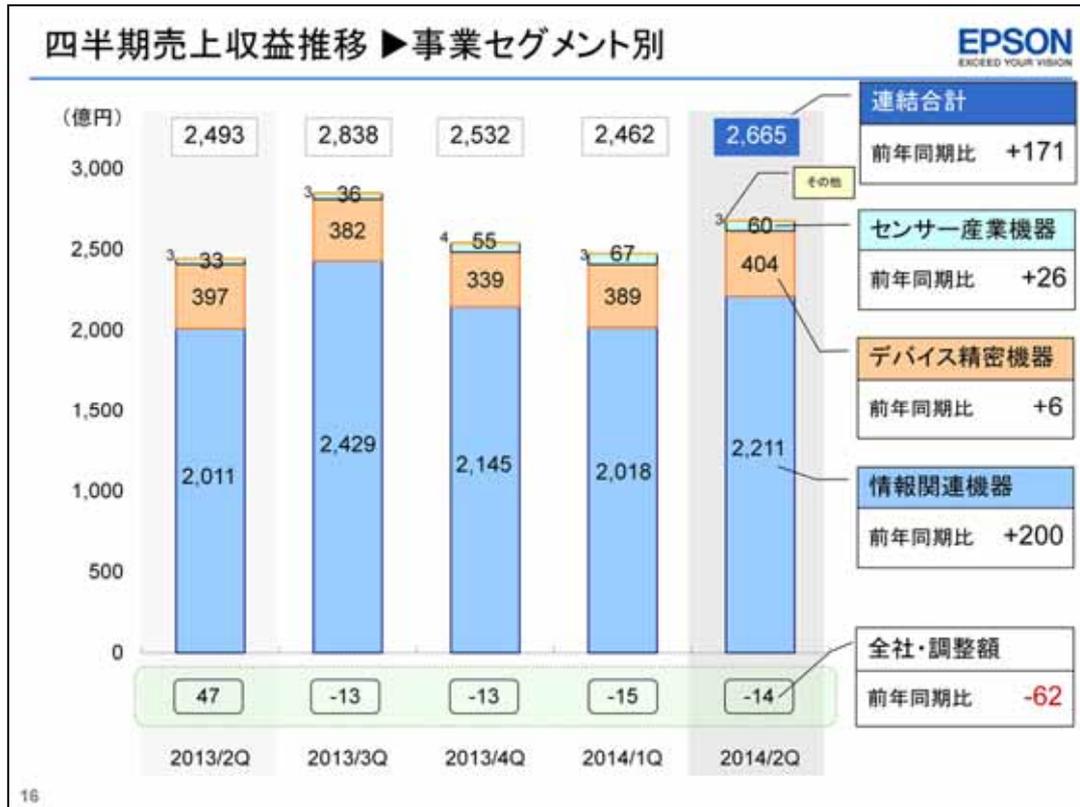


■ 2014年度下期の取り組み



1) 2014年度 第2四半期決算

2) 2014年度 業績予想



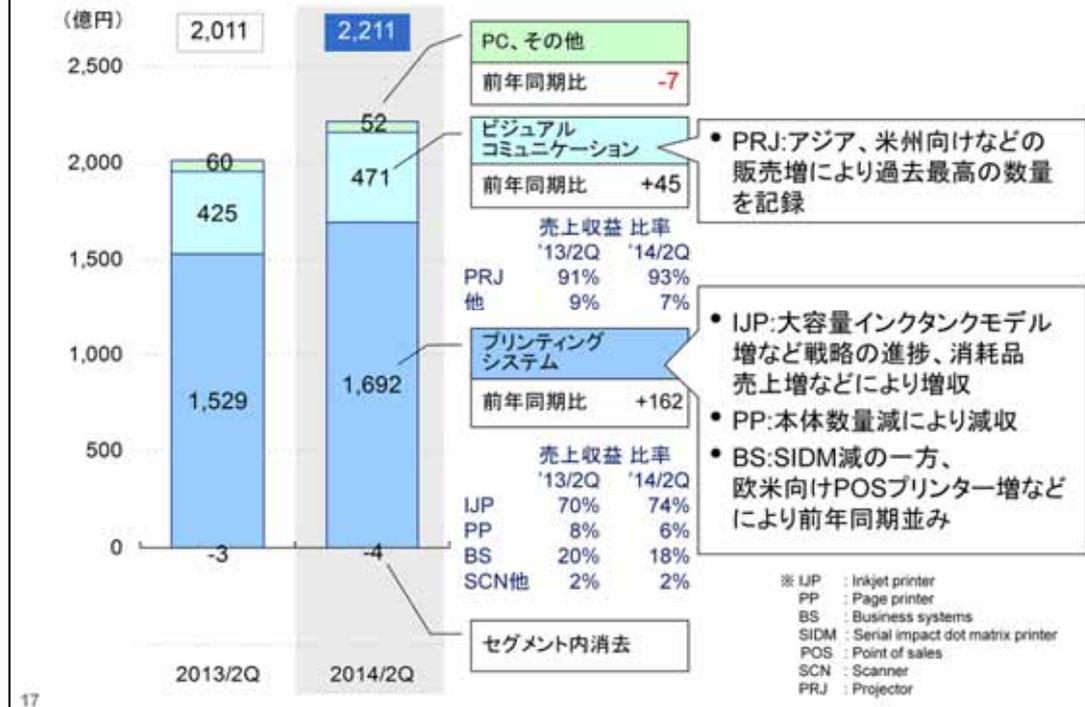
■ 事業セグメント別の四半期売上収益推移

- 前年同期に対し、
 情報関連機器セグメントは、200億円の増収、
 デバイス精密機器セグメントは、6億円の増収、
 センサー産業機器セグメントは、26億円の増収となり、
 連結合計では、171億円の増収となる2,665億円。

- なお、当四半期の為替変動による売上収益への影響分は、
 95億円のプラス影響。

四半期売上収益比較 ▶ 情報関連機器セグメント

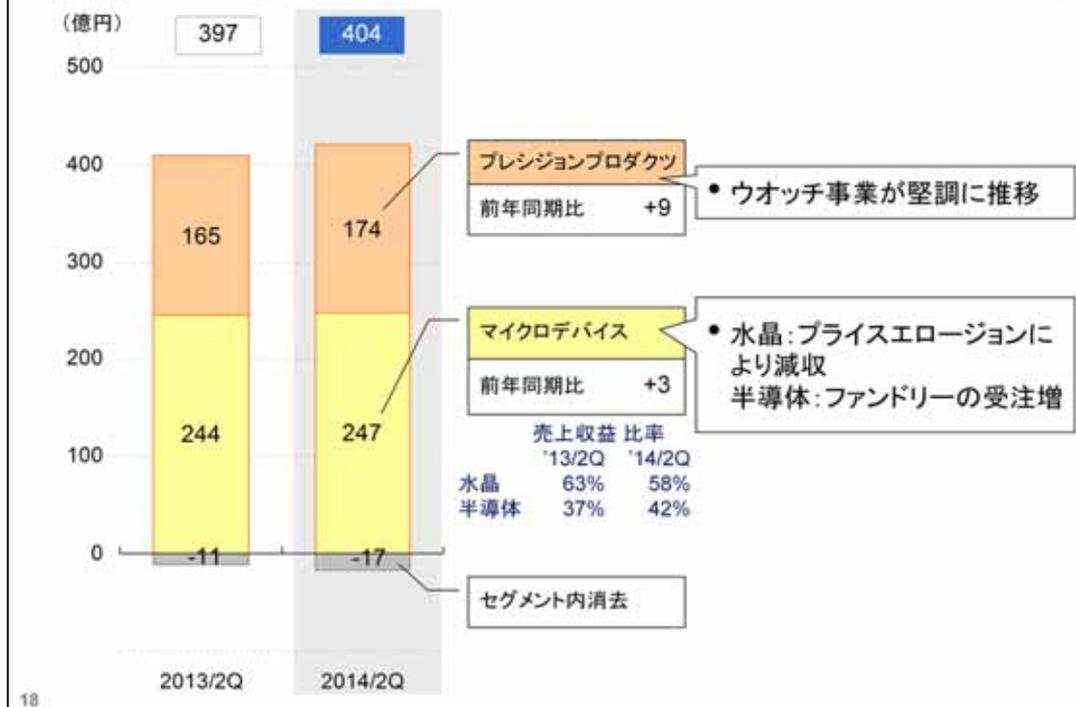
EPSON
EXCEED YOUR VISION



■ 情報関連機器事業セグメントの第2四半期 売上収益

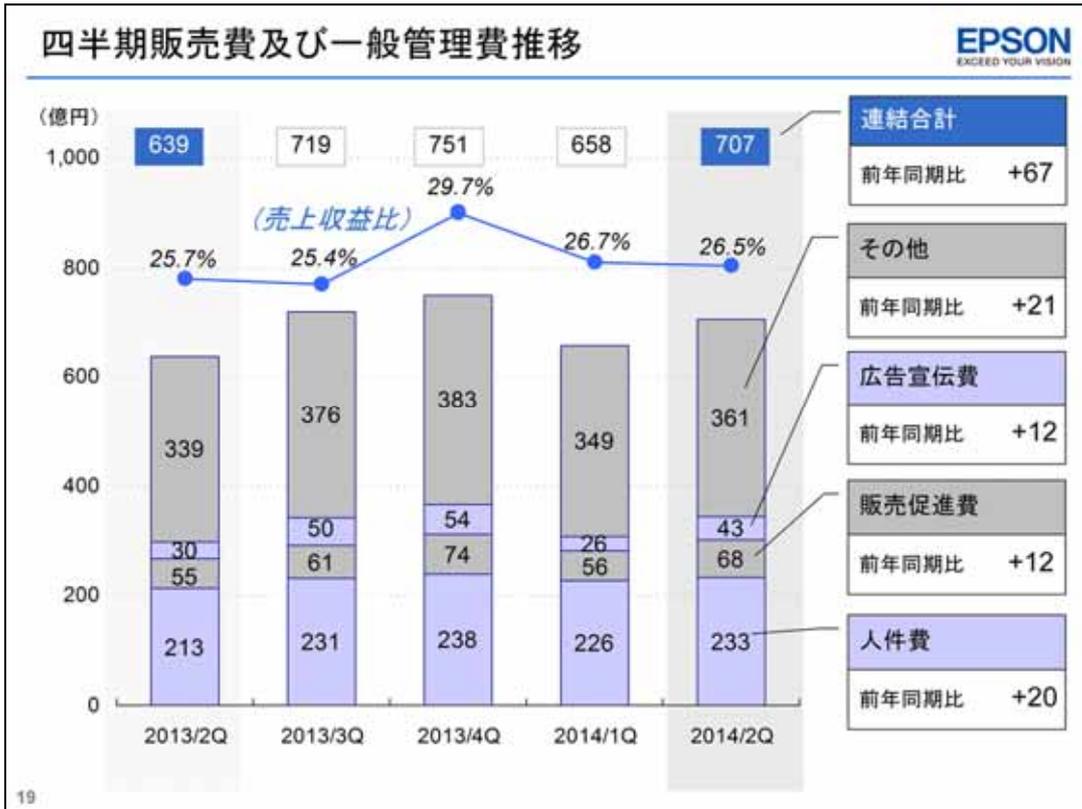
- 当セグメントでは、全ての事業で円安による効果があった。
- プリンティングシステムは、162億円の増収。
- インクジェットプリンターは、本体数量について、欧米市場でコンシューマー向けインクカートリッジモデルが減少する一方、オフィス向けインクジェットならびに大容量インクタンクモデルが増加し、全体では前年同期に比べて数量増となるとともに、消耗品の販売が、欧米市場で好調だったことにより、売上が増加。
- 商業プリンターは、A3フォトプリンターなどの売上が増加。
- 以上の結果、インクジェットプリンター事業は、前年同期に対し増収。
- ページプリンターは、低価格モデルの数量の絞り込みにより減収。
- ビジネスシステムは、SIDMが中国における徴税用特需分の一巡などにより販売減となったものの、POSプリンターが欧米市場で好調だったことから、前年同期並み。
- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクターにおいて、市場の成長が回復するなか、アジア、米州の教育向けなどの数量増により、四半期としては過去最高の販売数量となったことに加え、中・高価格帯の比率増加による平均販売単価上昇により増収。

四半期売上収益比較 ▶ デバイス精密機器セグメント



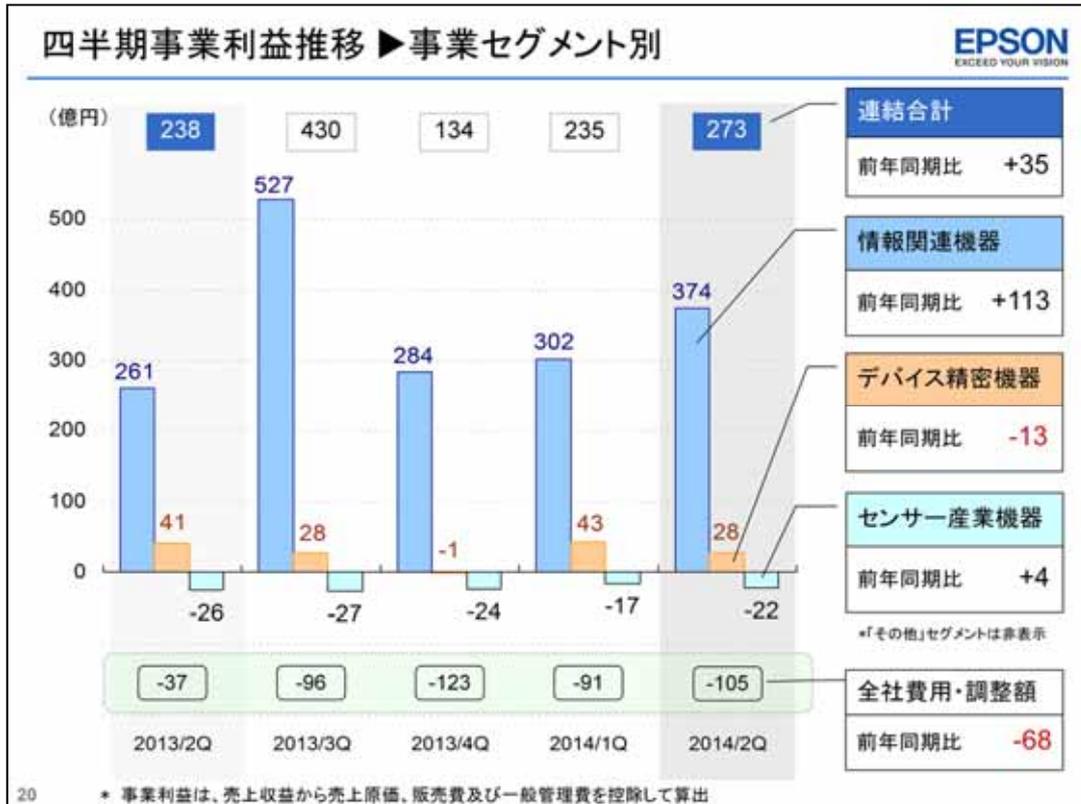
■ デバイス精密機器事業セグメントの第2四半期 売上収益

- マイクログデバイスは、水晶で、基地局向けなど高付加価値商品の販売が増加したものの、スマートフォンやデジタルカメラなど民生向け商品のプライスエロージョンが進行して減収。一方、半導体で、シリコンファンドリーの受注が大幅に増加して増収となり、マイクログデバイス事業全体で、売上収益はほぼ前年並み。
- プレジジョンプロダクツは、ウォッチ事業などが堅調に推移したことから、売上収益は、前年同期を上回った。



■ 販売費及び一般管理費の四半期推移

- 第2四半期では、
 為替の円安影響に加え、業績連動にともなう人件費の増加や、
 情報関連機器を中心とした販促活動の強化により、
 広告宣伝費、販売促進費などが増加したため、
 売上収益に占める販売費及び一般管理費の比率は、
 前年同期を上回る水準となった。

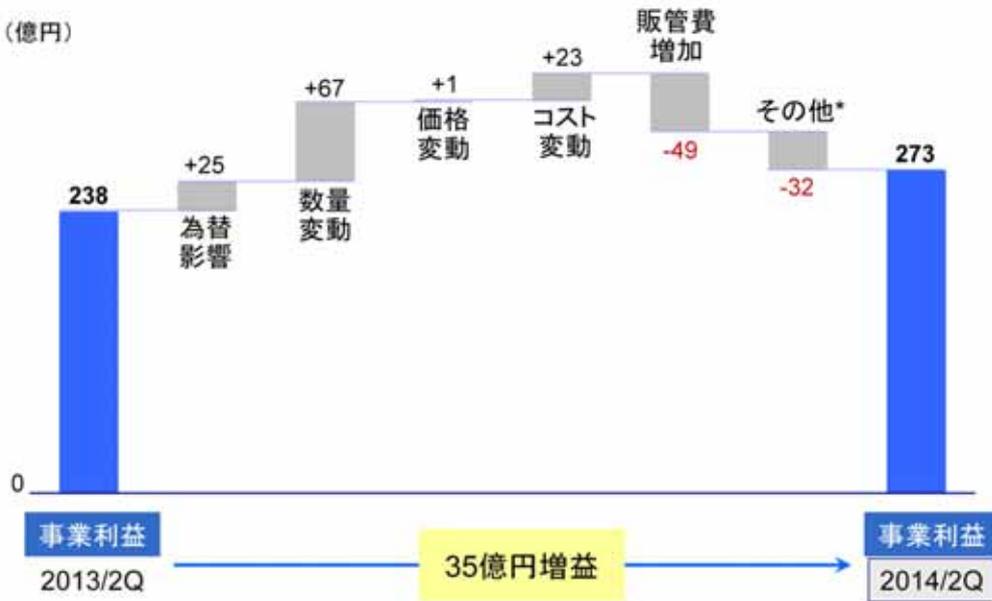


■ 事業セグメント別の四半期事業利益推移

- 当四半期における為替の円安効果は、
全社で、前年同期比 約25億円 のプラス影響があった。
- 情報関連機器は、前年同期比 113億円増益の 374億円。
- インクジェットプリンターは、
大容量インクタンクモデルの増加によるモデルミックスの改善効果、
ならびにコストダウンの進展と、消耗品の増収などにより、大幅な増益。
- ビジネスシステムは、売上収益、事業利益ともに前期並み。
- ビジュアルコミュニケーションは、増収により増益。
- ページプリンターは減収となったものの、コスト削減などにより前期並み。
- デバイス精密機器は、
半導体、ウオッチが堅調に推移したものの、
水晶の減収により、セグメント全体で減益。
- センサー産業機器は、
センシングシステムが新商品の投入を進めて売上を増加させるとともに、
インダストリアルソリューションズにおいて、戦略的に拡販を進めてきた
精密組立ロボットが、中国におけるスマートフォン製造向けや、
欧米における自動車部品、電子機器製造向けで増加し、前期に対し販売数量が
約2倍となるなど、セグメント全体で売上収益を倍増させ、赤字幅を改善。

事業利益増減要因分析

(億円)



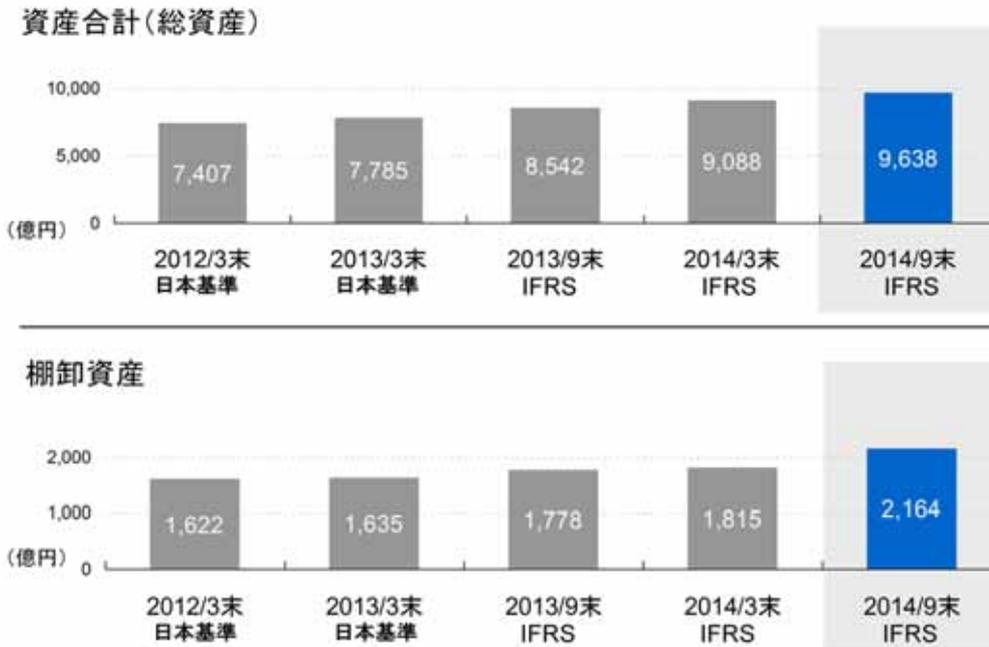
* 全社費用セグメント及び各セグメントにおいて類似商品同士の比較に適さない商品・事業の増減の総計

21

■ 事業利益の前年同期比の要因分解

- 2013年度 第2四半期の事業利益 238億円 に対し、販管費の増加などがあったが、数量変動やコスト変動、為替影響などの増益要因により、四半期事業利益は 273億円。

財政状態計算書主要項目推移



22

■ 財政状態計算書の主要科目

- 資産合計は、棚卸資産や、売上債権及びその他の債権の増加などにより、前期末に比べ549億円増加。
- 棚卸資産については、
年末の商戦期に向けた生産数量の増加に加え、
フィリピンやインドネシアにおける港湾の処理能力不足による在庫増、
為替による在庫評価金額増などにより、348億円増加。
2015年3月末には、前期末並みの在庫回転率とする予定。

財政状態計算書主要項目推移

有利子負債・有利子負債依存度



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率 (自己資本・自己資本比率)



*有利子負債・リース負債を含む

23

■ 財政状態計算書の主要科目

➤ 有利子負債は、

社債の償還などにより、前期末に比べて 92 億円減少し、
資産合計の有利子負債依存度は 21.9%。

ネット有利子負債は、前期末から 141 億円減少し、
31 億円のネットキャッシュとなった。

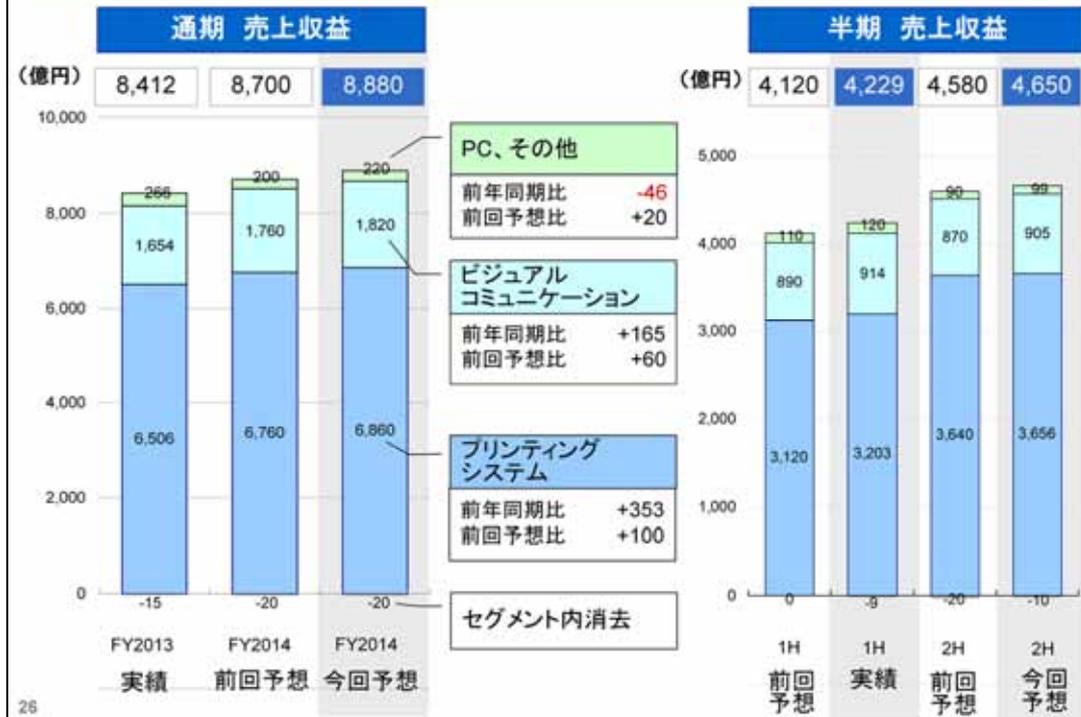
➤ 親会社の所有者に帰属する持分は、

当期の業績などにより、前期末に比べて 804 億円増加し、その結果、
親会社所有者帰属持分比率は 45.9%。

1) 2014年度 第2四半期決算

2) 2014年度 業績予想

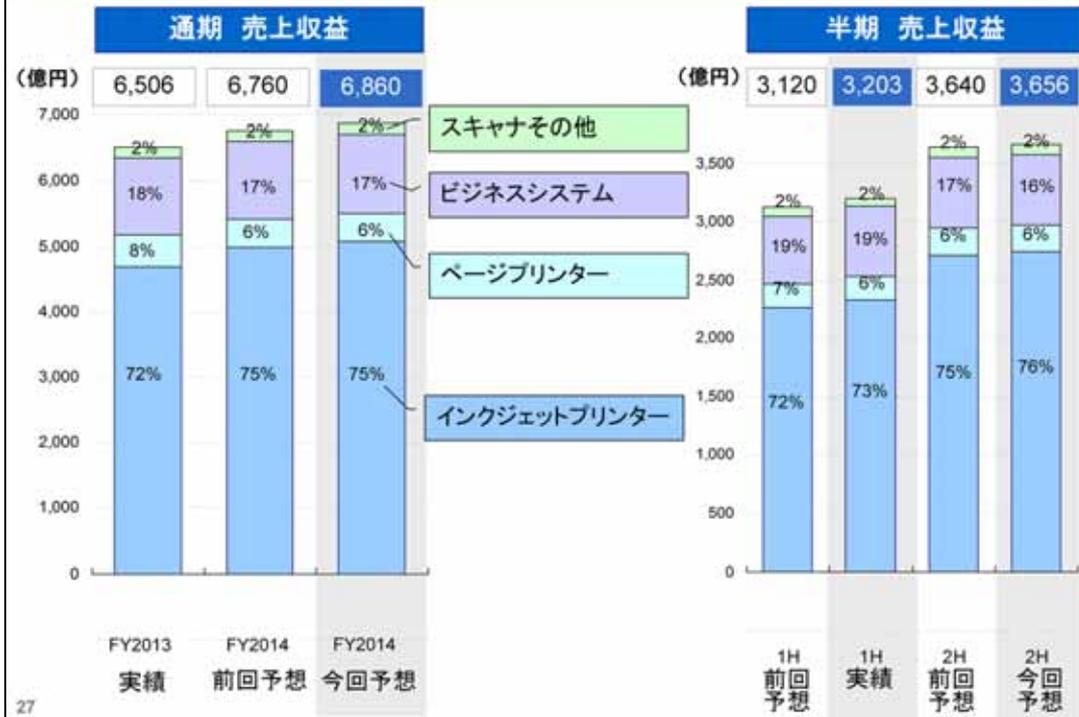
事業別売上収益予想 ▶ 情報関連機器事業セグメント



■ 情報関連機器事業セグメントの事業部門別売上収益予想の内訳

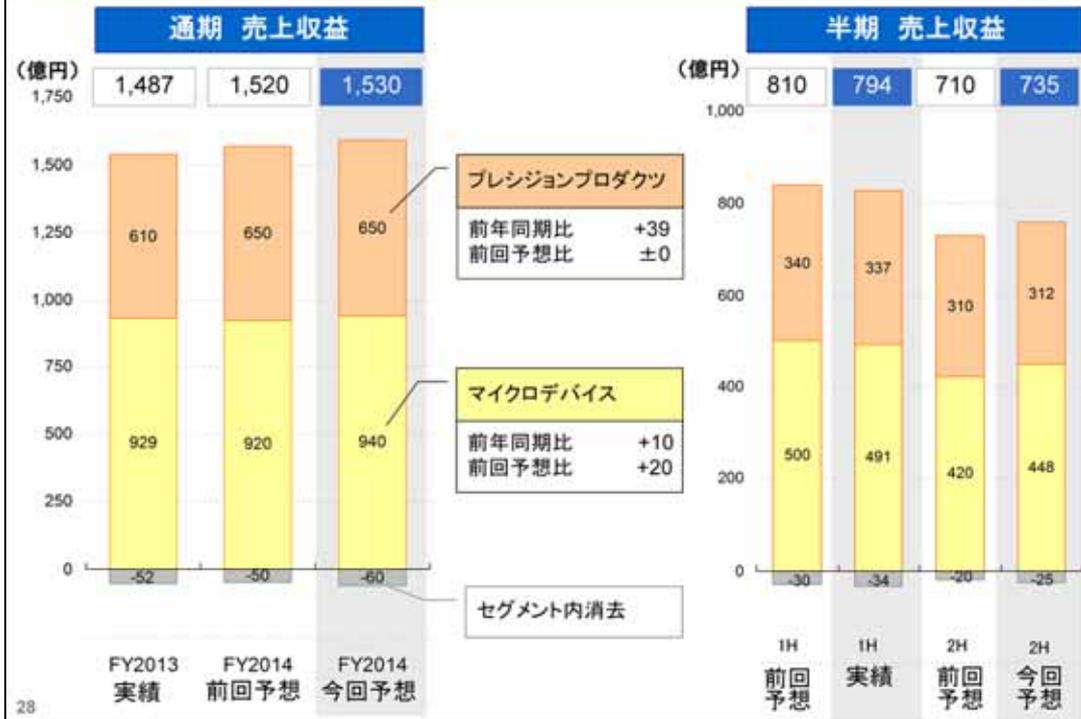
- ビジュアルコミュニケーションは、
前回予想を 60 億円上回る、1,820 億円を予想。
- プロジェクターは、
前回予想に対し、数量増を織り込み、
通期としては、前期比プラス10%程度の数量成長を前提として、
上方修正。

事業別売上収益予想 ▶ プリンティングシステム事業



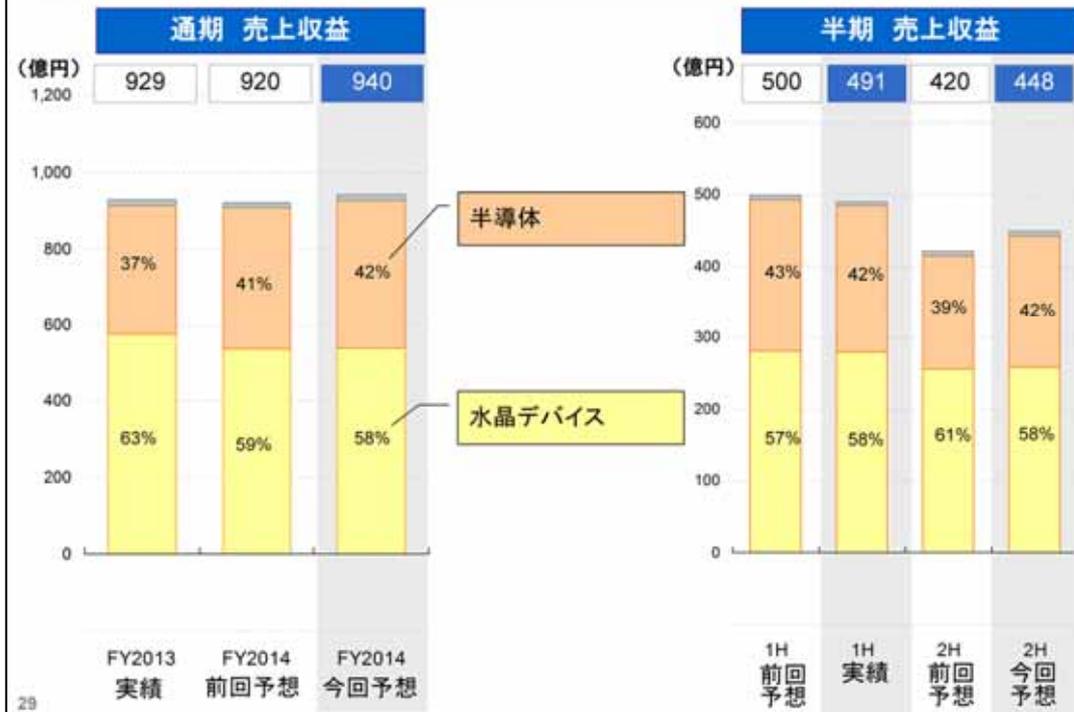
- プリンティングシステム事業の製品別売上収益予想
- プリンティングシステム事業は、
前回予想を100億円上回る 6,860億円を予想。
- なお、通期のインクジェットプリンター本体数量は、
前回予想並みの 前期比プラス8%を見込む。

事業別売上収益予想 ▶ デバイス精密機器事業セグメント



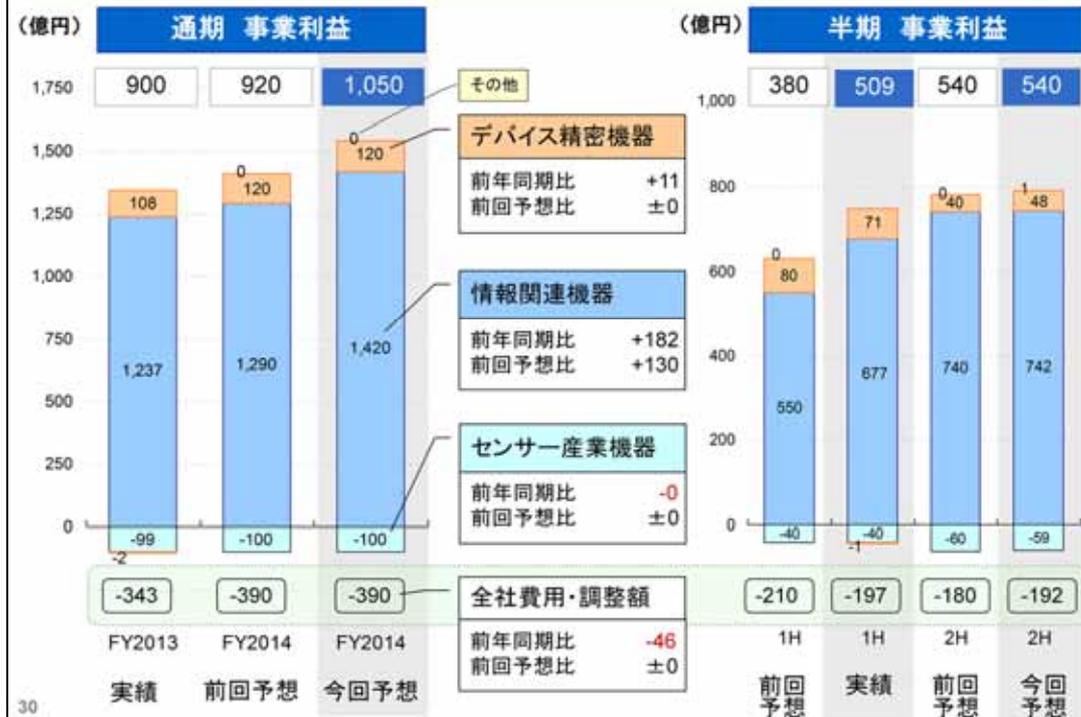
■ デバイス精密機器事業セグメントの事業部門別売上収益予想の内訳

事業別売上収益予想 ▶ マイクロデバイス事業



■ マイクロデバイス事業の製品別売上収益予想

2014年度業績予想(事業利益)▶事業セグメント別



■ 事業利益の事業セグメント別予想、上期 / 下期別の内訳

- 下期の事業利益は、連結合計で前回予想の540億円を据え置き、通期の事業利益は、前回予想920億円から1,050億円に上方修正。

設備投資・減価償却費予想



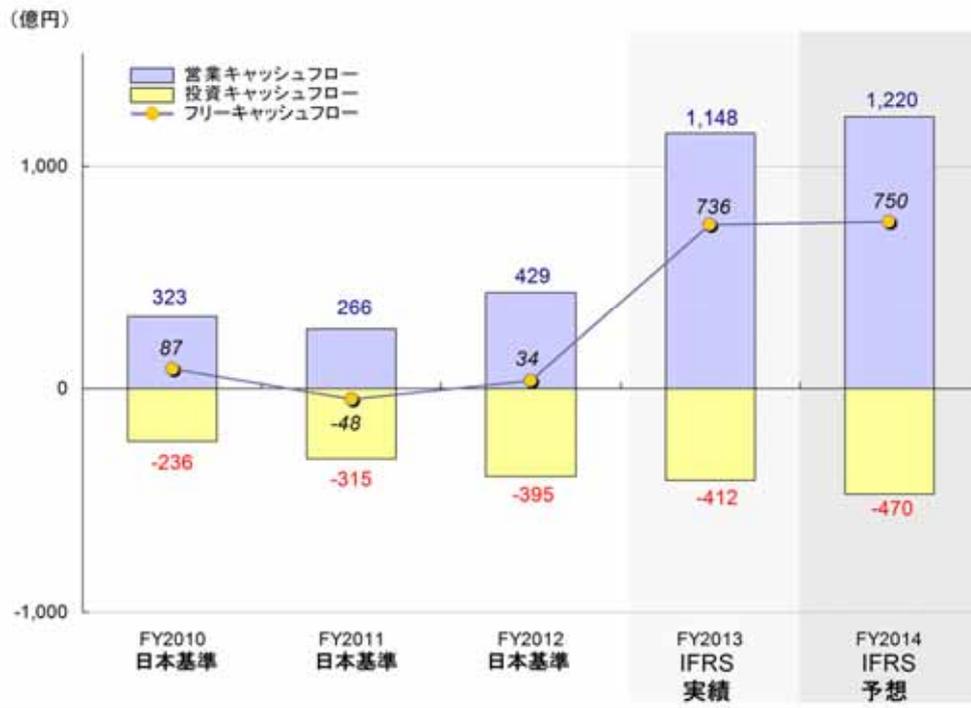
<セグメント別内訳>	FY2013実績		FY2014予想	
	設備投資	減価償却費	設備投資	減価償却費
情報関連機器	268	273	340	310
デバイス精密機器	80	76	90	80
センサー産業機器	8	7	20	10
その他・全社費用	20	49	50	40

31

■ 設備投資と減価償却費

- 設備投資は、案件の厳選により、前回予想の520億円から500億円に
減価償却費は前回予想の450億円から440億円に、
それぞれ見直し。

フリーキャッシュフロー予想

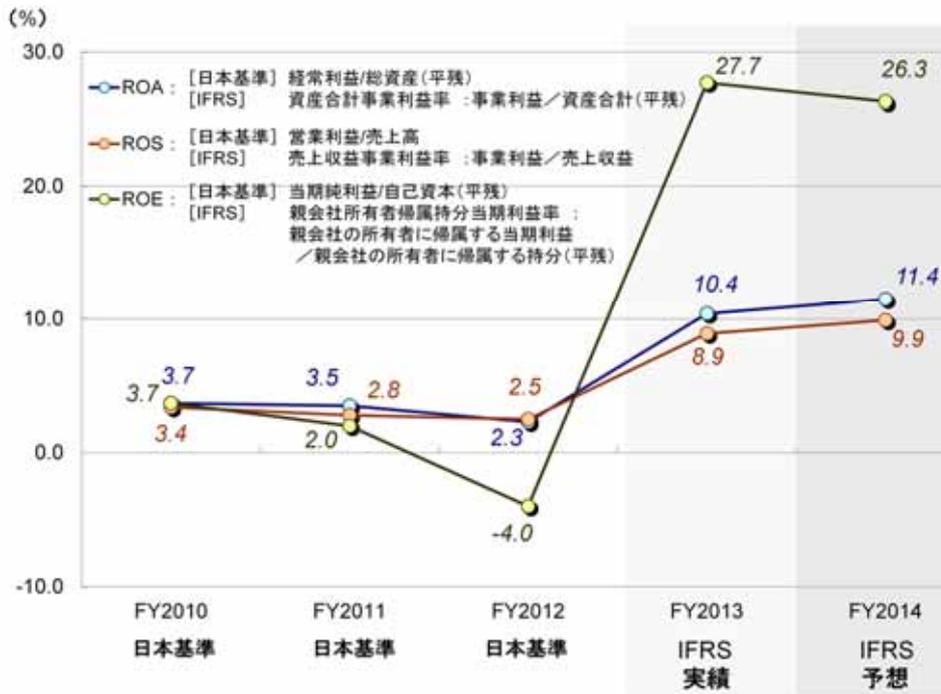


32

■ キャッシュフロー

- 業績予想の修正ならびに、設備投資の見直しにより、
営業キャッシュフローは 前回の1,180億円から 1,220億円に
投資キャッシュフローは 530億円から 470億円に
フリーキャッシュフローは650億円から 750億円に見直し。

主な経営指標の推移



■ 主な経営指標

ROSは 9.9%

ROAは 11.4%

ROEは 26.3%

EPSON
EXCEED YOUR VISION